

# 発刊の辞

西本 照真

Musashino University Creating Happiness Incubation 所長 武蔵野大学 学長

2016年4月、武蔵野大学は新しいブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を宣言し、新ブランドを具現化していく第一歩として武蔵野大学しあわせ研究所（正式名称は、Musashino University Creating Happiness Incubation）を2016年7月に開設しました。研究所開設と同時に学内の教員・職員の皆さまに呼びかけ、研究員としての活動参加を募りました。さらに学外の研究者の方々にもご縁をいただき、客員研究員として多数ご参加いただきました。その結果、2016年度は総勢50名余り、2017年度には100名を超える研究員・客員研究員にご参加いただいた組織へと成長をとげてきました。

この1年半あまりの諸活動を振り返りますと、国際シンポジウムの開催（2回）、しあわせ研究の発表ならびに交流の場である Happiness Meeting の開催（2回）、しあわせフォーラムの開催（3回）、授業科目の開設（2017年度はサブ・メジャーゼミナール「しあわせを考える」として開講）、しあわせ公開講座の開催（2回）、しあわせ通信の発行（7号）、しあわせニューズレターの発行（20号）など、実に多岐にわたる活動を展開してきました。

開設以来、日も浅くしてこのような多面的な活動が可能になったのは、それぞれの研究員の皆さまの個別の研究活動とともに、分野横断的な研究グループの研究活動の展開に負うところが大きかったように思います。研究グループの数も、2016年度には9件でしたが、2017年度には18件へと増え、研究グループのそれぞれにしあわせ研究費を交付して研究活動を促進してきました。各々の研究グループが、世界の幸せの実現を願いつつ、創意あふれる研究に取り組んでいただき、1年半にわたる研究活動の中で徐々に研究成果が実を結び始めてきました。今回、その成果の公表を募りましたところ、6つの研究グループから投稿をいただき、ここに『武蔵野大学しあわせ研究所紀要』第1号として発刊するに至りました。研究分野としても、教育学、日本語教育学、法学、薬学、工学、社会福祉学、心理学、仏教学など実に多岐にわたる分野から、分野横断的な研究も

含めて充実した共同研究の成果が発表されています。本学が目指す世界の幸せをカタチにする取り組みと、そのための研究成果の総体としてのしあわせ普遍学の構築からすれば、まだまだ端緒的な成果といえるかもしれませんが、今回の研究成果の公表が機縁になって、さらに今後の研究活動が進展し、学内外にしあわせ研究のネットワークが重々無尽に広がっていくことを念じています。

今回の紀要に掲載された諸研究に対する皆さまの忌憚のない叱正をお願い申し上げますとともに、研究所の諸活動に対するいっそうのご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、しあわせ研究所の開設以来、研究所主任としてあらゆる活動においてお骨折りいただきました渡部博志先生をはじめ、活動を支えてくださった学内外の多くの研究員の皆さま、研究所の活動を事務的に支えてくださった事務室の皆さま、関係各位に大変お世話になりました。お力添えいただいたすべての皆さまに、心より感謝、御礼申し上げますとともに、世界の幸せをカタチにしていくために、今後ともお力添えをたまわりますよう、よろしく願い申し上げます。

2018年3月31日

武蔵野大学しあわせ研究所所長

西本照真